

Solan Primary School
4th grade news letter

Venture

Fourth

2023 Dec 21

強みと弱みはトレードオフ

「丸くなるな、星になれ」というキャッチコピーが好きです。
世の中の多くの場面では、「人並み」とか「平均」とか「スタンダード」が求められます。

特に、日本はその傾向が強いです。

図形で言うと、それは「円」です。

まんべんなく、何でも出来る状態。

しかし、断言してもいいですが、そんな人間は存在しません。

凸凹（でこぼこ）があるのが、人間の自然な姿です。

強みと弱みは、誰にでも存在します。

尚、強みと弱みとは往々にしてトレードオフの関係にあります。

トレードオフとは、「何かを得ると、何かを失う」ということ。

一得一失（いっとくいっしつ）とも言ったりもします。

天秤をイメージすると、分かりやすいかもしれません。



強みと弱みにも、この関係が当てはまります。

ある力が強いことによって、ある力が弱くなっているのです。

例えば、チーターという動物がいます。

走るスピードは、時速約 100 km。

動物界最速の生き物です。

チーターは、極めて体脂肪率が低いことが特徴です。

そのため体温調節が苦手で、雨などが降ると途端に風邪をひいてしまうそうです。(ボディービルに挑戦している人たちも、一見ムキムキで頑丈そうに見えて、気温の変化にはめっぽう弱く、風邪をひきやすいと聞きます。)

しかし、だからといって、体脂肪率を高めるためにぶくぶく太っていくと、最大の持ち味である「足の速さ」が出せなくなってしまいます。

結果、獲物は取れなくなってしまおうでしょう。

足の速さを取るか、体温調節の力を取るか。

片方を得ると、片方を失う。

こうした関係を、トレードオフといいます。

人間にも、このことが当てはまります。

例えば、「積極性」が高い人がいたとします。

色んな物事にチャレンジできる、思いついたら即行動。

そのフットワークの軽さがその人の強みだとします。

学校でよく聞かれる褒め言葉「積極的です」は、非常に耳障りのいい言葉ですが、良い点ばかりかと思えばそうではありません。

例えば、その人はおそらく「慎重さ」に欠ける部分があると思います。

思い立ってすぐ行動に移すには、全てのリスクや条件を考慮してはできないからです。

失敗も、きっと多いことでしょう。

でも、その人に「慎重さ」を求めたとしたら。

恐らく、最大の強みである積極性は鳴りを潜めます。

人の強みと弱みはトレードオフ。

では、ここで一度立ち止まって考えてみましょう。

自分の強みとは、一体何でしょうか。

自分の弱みとは、一体何でしょうか。

みんなの頭には、どんな言葉が浮かんでくるでしょうか。

きっと、「全然思いつかない」という人もいたと思います。

強みや弱みは、自分では中々気づけないという特徴があるので、それも仕方のないことです。

だから、「人に言われた言葉」が凄く良いヒントになるのです。

ちなみになぜ、自分では自分の強みや弱みが見つげにくいのでしょうか。

それは、自分のことをほとんどの人が「普通」だと思っているからです。

自分のことを、「変わった人」と認識している人はまずいません。

何十年と連れ添った自分のことを、たいていはノーマルな人物像として認識しています。

でも、さっき書いた通り人間には必ず凸凹があります。

そして、その凸凹にこそ、自分の強みや持ち味が隠されています。

それは、人とのつながりをもったり、人との重なりが生まれた時に気づくことが多いです。

ちょうど、パズルのピースがすべて形が違うように。

他者と重なった時に、自分の特異さに気づくのです。

「あなたって、結構〇〇だよな」

「普通そんな風には出来ないよ」

「私とは全然違うね。」

こんな風に人に、「違い」を指摘されたら、それは大きなチャンスです。

そこに、自分の強みや良さやが潜んでいる可能性が高いからです。

円くなるのではない、星になれる可能性を秘めているポイントであるといえるでしょう。

なぜ、このようなことを書こうと思ったかという学習発表会を目前にして、クラスのみんなを改めてじっくりと見た時に先に書いた凸凹加減が、以前に増してクリアに見えてきた感覚があるからです。

しかし、学校は、往々にして「同じ」を求められる場所です。

先にも書いた通り、特に、世界の中でも日本はその傾向が強いです。

だからこそ、「違うこと」が恐れの対象になったりもします。

違うことを恐れ、よく分からない「人並み」や「普通」などの言葉にできるだけ自分を合わせようとしてします。

それはつまり、出っ張っている部分を押し込め、へこんでいる部分を伸ばそうとすることです。

それぞれ違うパズルのピースを、全て同じ形にすることにも似ています。

とても不自然な営みであることは、誰の目にも明らかです。

本来の形をゆがめようとしているのだから、かなり大変な作業であることは間違いありません。

だからこそ、無理に歪める前にそもそも「自分」とは一体どんな強みや特性をもっているのかを考えておくのが大事なのだと思います。

そして、自分の欠点や苦手だと思っている所には、多くの場合強みや持ち味が隠されています。

それは、先にも書いた通り、強みと弱みはトレードオフの関係にあるからです。強みと弱みは、表裏一体なのです。

だから、よく人に指摘される「欠点」や「ここを直した方がいいよ」といわれることを一度冷静に見つめてみるのが大切です。

「口が強くよく友だちを傷つける」と仮に自分が思っている場合。

それは、「率直な意見を伝えることをためらわない度胸がある」とも見ることが出来ます。

そうした場合は、自分の強みが発揮できる環境や仲間を作っていくといいでしょう。

簡単に言えば、ズバズバと言いつつ互いに価値を感じる人とつながったり、そうした力が長所として生かされる環境を探すのです。

「率直な意見」が重宝される場や仕事はいくらでもあります。

他にも、「マイペースで空気が読めないよね」とよく指摘される場合。

空気を読む力を鍛えることに意味がないわけではないが、それよりも自分の大らかさや独特の間を生かす方法を考えてみましょう。

世の中全体がアンテナの感度が凄まじく、キビキビ全員同じテンポで動いていたら、それはそれはしんどい社会になります。

あなたの大らかさに救われ、それが強みとなって発揮できる役割はきっとあるはずです。

お家の人と一緒に、どこかで自分の持ち味を考えてみるといいでしょう。

本来備わっている強みや形で、人を助けたりチームに貢献したりすることは大きな幸福感を生むからです。

☆ ↓ 読者ページはこちらから ↓ ☆ ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>



